

## 設計趣旨説明書

《作品タイトル》

三河安城のホワイエ - 賑わいの流れと淀みをつくる点 -

《提案の趣旨》

### 01 三河安城のホワイエをつくる

敷地は建設予定の多目的交流拠点と駅間に位置し、様々なプレイヤーが活動していることからマチの結節点としてポテンシャルのある場です。公共交通機関の「待合」やスポーツ観戦前後の高揚感をコントロールする「緩衝」、仕事や家事、趣味などの「余暇」を楽しめる場所が必要であると考えます。そこで、「待合」「緩衝」「余暇」の行為と時間に着目し、バショやヒト、コトをつなぎ、活動を促す「三河安城のホワイエ」をつくります。

### 02 明治用水をモチーフとした三河安城らしさのある場

安城市は明治時代に開削された「明治用水」によって「日本デンマーク」と呼ばれるまでの農業地帯に発展した歴史があります。現在でも田園風景が広がる一方で、農地は徐々に工場へと変わり、マチの発展の礎を築き、市民の生活に寄り添う「明治用水」が分かりづらい状況にあります。そこで、「明治用水」をモチーフに場をつくることで、三河安城のアイデンティティを高めると同時に、賑わいの流れをつくります。

### 03 スケールや機能を横断し、流れと淀みをつくる三河安城の点

「明治用水」から水と稲穂をモチーフとした「点」により構成された場を提案します。様々な行為や機能に合わせて長さや太さを変えた「点」を基準に、屋根、ファニチャーやタープなどを付随していくことでシンプルかつ多様な空間と利用者の活動をサポートする場をつくります。はじめに、想定される行為及び滞在時間からゾーニングを行い、点と点の距離やイベント時や日常時など、様々なことを考慮しながら配置することで場に流れと淀みをつくり、人を呼び込みます。

### 04 みんなのミズミチとポケットパーク

明治用水のようなミチ《ミズミチ》を敷地内に引き込むことで回遊性と滞在性を高めます。周辺の環境に合わせて出入口や形状、幅を設定し、マチとシームレスな場をつくります。また、ミズミチにできたポケットパークはヒューマンスケールをもち、大きな空地やヴォリュームが目立つ駅前空間を快適で利用しやすく、つかう活動を加速させる場に変えます。性格の異なるポケットパークをめぐる楽しさ、自由度や多様性を獲得した場になります。

### 05 広域に拡がる点、マチと連続するミチ

シンプルで分かりやすく、最小の空間単位である「点」から生まれる活動は線や面となり、マチの空地や遊歩道沿いなど広域に拡げられるポテンシャルを持ち、市民の活動を促し、補助するランドマークとして、マチのデザインルールに適用できます。マチの玄関口である駅や周辺の明治用水遊歩道とミズミチを連続させることで、マチの延長として駅とマチ、人や活動をつなぎます。

### 06 多様な主体が連携して賑わう健幸なまちづくり

市民・民間・行政をつなぐ「安城市公民連携フロント」と連携して協議会を設立します。具体的なまちの変化を通じて市民や民間、ステークホルダーを巻き込み、共有や発信ができる体制を構築します。公民連携及び多目的交流拠点との連携を前提に持続可能なまちづくりにつなげます。キッチンカー等の売上の一部、又は広告により得た協賛金を運営維持管理に充当する仕組み構築します。また、利用者や各企業もコミットしながらプレイスメイキングを行うことでマチを使い取り組みを加速させ、賑わいのある持続可能なマチを一緒につくっていきます。他にも、木材の積極的な活用やワークショップ等を行うなど、ウェルビーイングな脱炭素化社会やSDGsの実現に参画します。